

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	社会福祉法人 タ風会		
事業所名	グループホーム タなぎの家		
所在地	岡山市 東区 宿毛 745-3		
自己評価作成日	平成29年 3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター
所在地	岡山市北区津高628-1
訪問調査日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームタなぎの家は、建物の4階部分にあります。ホールは明るく開放的で、とても眺めが良く小高い丘には、桜並木や桃畑が、眼下には田園風景が広がります。
春には、西大寺の公園に花見を、夏には牛窓の海やオリーブを見学し、秋には上寺山に紅葉狩り、早春には神崎の梅園見学など、地域の資源を活用しています。
入居者お一人お一人の人格を尊重し、思いに寄り添った支援をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合福祉施設の一角にある混合型特定施設の4階にあるグループホームで総合福祉施設全体が地域の資源としての役割も果たしています。様々な行事、催しなど大々的に行われており、入居者も参加し、地域の方との交流に繋がっています。又、職員のチームワークが良く入居者は日々の暮らしに張り合いを持って自分らしく生活できる様努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に添い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念になる様に作り、職員会議で話し合いを持ち、実践に繋げられる様努力している。	法人の理念を基に、地域密着型サービスの意義・役割を考え、地域に愛され選んでいただけるよう、日々の勉強やサービスの向上に努め、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会の夏祭りやGHの外出、地域の方が出席する運営推進会議などを通して、ふれあいを持つことが出来る。診療所でなじみの方との会話や近くの園児の慰問や、ボランティアの歌声喫茶などに参加している。	ボランティア・保育園児の来訪、実習生の受け入れ、認知症カフェの開催など地域との繋がりが強いことが窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡山東区地域包括支援センター、地域連携室と連携をとりながら、地域の方との相談事や見学などに応じている。居宅との連携により、施設近辺からの入居者が多く、今後も地域貢献に繋げていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、運営推進会議を6回開催する事が出来た。行事や取組などを報告し、地域の方、家族、市の職員から適切な助言を頂き、ケアに活かしている。	運営推進会議を2か月に1回開催し、活動・現状等課題目標について話し合い、参加者の意見を参考にサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員を迎え、事業所の取り組みを伝えて助言を頂いている。不明な点は置いておかず、市の担当者や地域包括支援センターに相談し協力を得ている。また、地区の運営に関する情報など得ている。	毎月、市の事業者指導課に現状報告をしています。また、運営推進会議で情報を貰ったり、分からないことはその都度相談し、日頃から積極的に関係づくりに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロハンドブック」を時々見ている。入居者が不穏になる時間があり、県道沿いで事業所が4階にある事から、玄関の施錠がされており、今後ゼロに近づけたい。	内部研修・外部研修などで拘束について職員同士話し合い、情報交換する中で入居者本位に考え、身体拘束しないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に行ったり、施設長より権利擁護や、コンプライアンスルールについての講習があり、新聞テレビなどから職員間でも話し合う事がある。今後も意識を高めていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の入れ替わりに伴って、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を準備中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明し、後で苦情につながらないように、理解や納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や手紙、面会時に意見、要望をお聞きすることになっているが、意見や要望があれば真摯に対応し運営に反映させる様努めている。	訪問時や手紙で意見・要望を聞く機会を設けています。ご家族の要望で下肢筋力トレーニングを行ったり、食事についても意見があり運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも気づいた時に、改善点や良いアイデアが言える雰囲気作りをし、職員会議で出た意見も参考にし、運営に反映させていけるよう努力している。	職員は施設長・管理者に気軽に意見が言える関係に努めており、日常業務について細かな意見があり、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や上司は、向上心を持って働けるような配慮があり、職場環境・条件の整備も整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士やケアマネなどの、資格取得をサポートしたり、人事考課制度やOJTなど職員を育てる為のシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会に、他施設と交流する機会がある。意見交換や活動を通して、事業所のサービスの質を向上させられるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格、趣味など情報収集し、今までの生活と大きく変わる事の無い様にし、傾聴共感に努め安心安全に過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の負担軽減の為に、不安や困りごとなど傾聴し、真摯に対応することで、信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって、今一番必要な支援は何か他職種との情報交換により見極め、視野を広く取りながら、サービスを提供出来る様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の様な雰囲気の中で、入居者の残存機能や言動を大切にしながら、お手伝いなど日々生活で活かせるような支援に努めていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の願いや思いを汲み取りながら、連絡を密にしケアをさせて頂いているが、施設に遠慮されている家族も見受けられる為、信頼関係の構築に努力していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪や、電話に出られることで、馴染みの関係が継続出来るように努めている。診療所や運営推進会議で馴染みの人と会話の機会がある。	入居者は地元出身の方が多く、知人・友人の面会や法人内の他施設から友人が訪ねて来られ、継続的な交流があります。また、電話や手紙などで馴染みの関係が途切れないよう努めています。手紙を書くのが難しい方には、職員が代筆しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の配膳や下膳、創作活動、菜園活動、レクリエーションなどを通じて、一人ひとりが孤立することなく協力し、助け合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れても、電話相談があったり、会いにいたり、これまでの関係性を断ち切る事のないよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や行動、会話の中から、希望や意向などの思いを受け取り、カンファレンスで検討し本人本位の支援につなげていけるよう努力している。	日々の関わりの中で本人の嬉しい事、嫌な事を把握し、本人本位に検討しています。安心して穏やかに充実した日々が過ごせるよう心掛けています。意思疎通が難しい方は、家族から情報を得たり、会話の中で意向を汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活環境を把握し、これまでの経過に即したものとなる様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った暮らし方が出来る様、カンファレンスを重ねているが、今後も適切な支援に努めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族にとって、今一番必要な支援は何かを見極め話し合い、本人や家族、主治医の意見、助言、アイデアに基づき、介護計画が作成されるよう今後も努力していく。	カンファレンスで計画作成担当者を中心に職員で話し合い、本人・家族・医師の意見を反映し、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきにも職員間で共有し、日々ケアに活かしているが、改善点が出れば、計画を見直すようこれからも努力していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の様々なニーズに対し、他職種の助言などにより、柔軟かつ多様な選択が出来る様、今後も努力していく。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の豊かな自然を満喫し、気分転換を図ったり、地域の施設に出掛けたり、保育園児の慰問を受けるなどしている。今後も豊かなくらしづくりに努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これからも家族、主治医、事業所間での良い関係を保ち、入居者の方が適切な医療を受けられる様、努力していく。	隣接した医療機関への通院介助又、歯科・精神科医の往診等、希望する受診支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	感染症予防の指導や、急変時の助言など協力体制が出来ているが、今後も診療所や施設内の看護師と連絡を取り合っ、適切な受診に繋げるよう努力していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力病院、事業所間の連携により、早期に退院が出来る様、情報交換や相談、洗濯物の交換など行っているが今後も努力していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一年前に腸にポリープが発見された入居者の方が、入院2日目に亡くなられた。面会時や手紙、電話でご家族に現状を伝えながら、職員、主治医、栄養士と話し合いを重ねて看取りに近い時期まで、支援させて頂いた。今後も事業所で出来る所まで支援に努めていく。	入居時に事業所の出来ることを家族に伝え、その都度段階的に話し合い、医師と相談しながら家族の要望に沿えるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて、危機管理意識の徹底を図る様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。平成28年からは毎年夕風会全棟で3月11日午後2時より、南海トラフ大地震を想定しての、災害避難訓練を行っている。運営推進会議で地域に情報提供している。今後も訓練を重ねていく。	事業所のみの訓練だけでなく、法人全体でも災害訓練に取り組んでいます。災害時は地域の避難場所として指定されています。また、災害発生時に備えて、水・食料の備蓄をしています。	今後も様々な災害に備えて全職員が災害時の避難が行えるよう、引き続き訓練されることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護の内、外部研修を重ね、法人の理念『人間の尊厳を守る』を職員会議で確認し、一人ひとりの人格を尊重した支援が行える様、今後も努力していく。	法人理念を基に、一人ひとりに合った言葉かけに気を付け、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう職員同士で話し合い、支援するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により、希望の表出や自己決定が難しい入居者もおられるが、声掛けやスキンシップ、表情から読み取ったり、寄り添い傾聴するなど、拒否も含めての自己決定が出来る様な支援に努めていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の入れ替わりがあり、個人の性格や趣味嗜好などを考慮し、一人ひとりのペースに合った支援に余裕のない時もあるが、今後改善できるよう努力していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、髭剃り、服選びなどの細かな要望に応え、その人らしさが出来る様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整や、誤嚥体操を行い、下膳配膳の手伝いなどし、食事が楽しみになる様な支援に努めている。ベランダの野菜を、献立やおやつに取り入れている。	入居者が積極的に食事の準備・片づけを行っています。一人ひとりの力を発揮する場となっています。おやつにベランダの菜園で取れたさつまいもや果物を食べたり、誕生日にはケーキを作り入居者の楽しみに繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態など考慮し、主治医や栄養士の助言を取り入れながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科受診や入れ歯の清潔保持を心掛けているが、毎食後全員は出来ていないので、今後支援に取り組む。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日勤帯は本人の排泄のパターンの把握に努め、声掛けや誘導をしているが、夜勤帯のみ2名のおしめの方がいる。	なるべくトイレでの排泄が出来る様、日中・夜間ともに個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、サツマイモなどを、食事やおやつに取り入れたり、運動や下剤の服用などで早めの排便を促す様支援している。医師、看護師、栄養士と連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否が多いが、声掛けの工夫やタイミングをずらす、温泉成分入りの入浴剤を使うなど、柔軟な対応に努めている。今後も入浴を楽しめるよう努力していく。	清潔保持に心掛け、本人の気持ちを大切にしながら支援しています。入浴拒否には、無理強いせず個々に沿った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息時間を取ったり、自宅で使用していた毛布やラジオを使用するなど、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の質問があれば、誠意をもって説明を行い、服用後の変化など見逃さず、主治医に報告し、指示を仰ぐ様にしている。粒の服薬が困難な方には、粉状にしたりとろみ剤を利用し工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、創作活動や外出など、一人ひとりが残存能力を活かして関わり合えている。その中から生きがいや喜びが感じられるような支援に、これからも努めていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方の応援で親戚の家や自宅に寄れる方もおられるが、一人ひとりの希望に添って、個別の外出支援が日常的に行えるまでには至っていないので、今後努力していく。	季節ごとに梅園見学・お花見・紅葉狩り・初詣など四季を楽しみながら、外出支援をしています。また、天気の良い日はベランダに出たり散歩、ドライブなどで気分転換を図っています。家族の協力があり、お墓参り・外食などされる方もいます。	1日の過ごし方から一人ひとりの様子や傾聴を心掛け、今後も家族と協力しながら、入居者の思いに沿える様、個別の外出支援にも取り組まれることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、本人がお金を持っておられる方はいないが、要望があれば職員が購入している。嗜好品や趣味の物を本人といつでも買に行けるように今後努力していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの親類や知人からの電話や手紙に、本人の近況を手紙、写真と共にお知らせし、誠意ある対応が出来る様努めている。いつまでも良い関係づくりが保てる様、年賀状、暑中見舞いなどの作成支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階は明るく開放感がある。共有の空間には花や外出の写真などを飾り、季節感の演出に心掛けています。適した音量で昔の歌謡曲や童謡をかけている。	共用空間は明るく開放的で、窓からは田園風景が広がり梅や桜の花が眺められます。壁には、入居者が作った作品や写真などが飾られ、居心地よく過ごせるような空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居心地の良い空間作り、好みの場所の確保、気の合う入居者同士での場所など、本人の思いに添った居場所づくりに努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や、家族の意見を取り入れ、安全性を考慮した家具の配置や、壁には思い出の写真、花などを飾り、本人が居心地良く過ごせる様努めている。	使い慣れた物や仏壇などを持ち込み、これまでの生活習慣を大切に、本人が居心地良く過ごせる様努めています。壁には思い出の写真などを飾り、本人の思いに沿った居室づくりが窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、便座まで続く手すり、トイレの目印、浴槽内の滑り止めマットなど個人の残存機能を活かしながら、安全で自立した生活が遅れるよう努めている。		